

会員各位

内藤、竹腰理事からのご提案を受け、学会よりアブラガム博士 (Anatole Abragam) の追悼の意を示すことといたします。

学会長

嶋田一夫

アブラガム博士ご逝去のお知らせ。

2011年6月8日に“**The Principles of Nuclear Magnetism, Oxford University Press 1961** (核の磁性、吉岡書店、富田和久、田中基之訳)”の著者として世界的に著名なアブラガム博士 (Anatole Abragam) が96歳でご逝去されました。日本核磁気共鳴学会では博士のNMR研究およびNMR研究者へ多大なNMR原理の教育活動に対する業績をたたえて深く哀悼の意を表します。

アブラガム博士は、ロシア帝国領ラトビアで生まれたが家族とともにフランスに移り、パリ大学 (ソルボンヌ) で教育を受けました。第二次世界大戦の軍務の後に *École Supérieure d'Électricité* で教育を再開し、1950年にはオックスフォード大学で学位を取得されました。その後、1960-1985まで *Collège de France* の教授として教育と研究に専念されました。アブラガム博士の最大の業績は“**The Principles of Nuclear Magnetism**”の出版であることは疑う余地がありません。この著書は多くのNMR研究者のバイブルとして愛読され、50年を経た現在でも数多く引用されています。日本のNMR研究者も日本語訳の核の磁性でNMRの原理や理論を学ばれた方が数多くいらっしゃると思います。そして、NMRの解釈に行き詰ったとき、核の磁性を読み返してみると、問題解決の糸口を本の中に発見するという経験をもった方も多いのではないでしょうか。日本核磁気共鳴学会では若手研究者にもアブラガム博士および著書“**The Principles of Nuclear Magnetism**”の偉大な功績を知ってもらうため、ここに哀悼の意を表するメッセージを発信させていただきます。

日本核磁気共鳴学会理事会